

自立し、互いに関わり合いながら、よりよい社会づくりに参画し行動する「有徳の人」の育成を目指して



Eジャーナルしずおか

平成27年(2015年)
6月5日
金曜日
第153号

発行・編集 教育政策課 〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号 TEL 054-221-3168 FAX 054-221-3561 E-mail kyoui_selsaku@pref.shizuoka.lg.jp

「まなぼっと」で学ぼう!と 静岡県生涯学習情報発信システム 「まなぼっと」

【静岡県教育委員会の取組】平成27年度「まなぼっと」活用推進事業実施要綱

学習情報 対象からさがす

子ども 一般 学校(教職員)

検索

皆様にご利用されてきた「ふじのくにゆうゆうnet」と「まなびネット21」が統合され、新しく生まれ変わった「静岡県生涯学習情報発信システム「まなぼっと」」は、いつでも、誰でも、どこでも、自分の「学び」の場を簡単に探すことができるシステムです。また、その「学び」の様子も発信することができる優れたものです。

「まなぼっと」では、地域や開催期間だけでなく、目的(内容)や対象者からも情報を探すことができます。また情報提供者になれば、しずおか県民カレッジ連携講座や県政出前講座など、参加者を募集したい学習情報を広くお知らせすることができます。

「まなぼっと」を活用すれば、「学ぼう!と」という生涯学習情報を、あなたもさっと見つけることができます。

まなぼっと 静岡

<http://www.manabi.pref.shizuoka.jp/>



検索はこちらから

～問合せ先～

静岡県総合教育センター 生涯学習推進室
〒436-0294 掛川市富部456
TEL:0537-24-9715 FAX:0537-24-9748
E-mail:kouza@manabi.pref.shizuoka.jp

ひらがな読み調べ
袋井市では、小学校1年生を対象に実施しており、今年で5年目になります。ひらがなは自然に覚えるものと考えがちですが、これが意外に難しく、特に特殊音節の拗音(小さいや・ゆ・よのついた語)は、7月の段階



スタッフ考案「拗音かるた」

子ども支援室は、困っている子どもたちの思いに寄り添い、周りの大人たちが手をつないで支えていくように、これからも働きかけていきます。

袋井市すこやか子ども課 子ども支援室

生活産業のスペシャリスト育成
家庭科教育では、少子高齢化社会の進展や食生活の変化、ライフスタイルの多様化に対応し、衣食住・保育・福祉など、生活産業のスペシャリストとして必要な資質や能力を育成しています。

県内で、公立高校唯一の家庭に関する学科として情報デザイン科を設置する県立御殿場高等学校では、生徒たちが日常生活や地域社会に深く関わる課題について学習し、地域社会を支えるとともに、私たちの生活環境を豊かにするために、日々

努力しています。感じて考えてつくる情報デザイン科には、ヒューマンサービス(保育・食物栄養・被服等)とデザイン(ファッション・色彩・CG等)の2つの類型(コース)があります。『感じて考えてつくる』をテーマに、自立した人社会を作る人、スペシャリストとして活躍する人の育成を目標としています。この目標を達成するために、デザイン・コンクールの等への参加、地域・企業と連携したオリジナル商品の開発・販売、文化祭等でのファッション



御殿場高校スペシャルメニューの商品説明

化祭等でのファッション紅茶等の日常感覚で味わえる食品と加熱キット、皿が一つの袋に入り、携帯できるようになっています。昨年6月からは、地元公民館や市役所等に出向き、商品説明を行うとともに、7月からはスーパーの店頭やイベント会場にて販売実習も行いました。また、今年1月には内閣府を訪問し、副大臣に開発商品の説明を行いました。実際に試食をしていただき、生徒は食生活の改善だけでなく、流通から販売に至るまでの過程さらには防災意識の重要性についても学んでいます。

地域の非常食を開発
情報デザイン科の生徒がアイデアを出し、緊急携帯食T.H.E. P.A.D.を開発しました。これは非常時でも大好きなものを食べて安心できるように、被災者の気持ちに寄り添うことを意識し、メニュー開発・パッケージデザイン等を行って完成した非常食です。ハンバーガーやワッフル、紅

茶等の日常感覚で味わえる食品と加熱キット、皿が一つの袋に入り、携帯できるようになっています。昨年6月からは、地元公民館や市役所等に出向き、商品説明を行うとともに、7月からはスーパーの店頭やイベント会場にて販売実習も行いました。また、今年1月には内閣府を訪問し、副大臣に開発商品の説明を行いました。実際に試食をしていただき、生徒は食生活の改善だけでなく、流通から販売に至るまでの過程さらには防災意識の重要性についても学んでいます。

これはスタッフの合言葉です。心理士、養護教諭、小中学校教諭、保育士、保健師等の専門性を持ったスタッフが相談・支援に当たり、園や学校、関係機関との連携体制をつくっています。保護者からは「気軽に相談でき、アドバイスをいただきたありがたかった」、学校からは「特別支援教育に対する意識を高めることができた」といった声があります。

キャリア教育の視点に立った地域社会との連携
地域や産業界、企業等と連携した活動は、これ以外にも、例えば、「こてんばアートクラフトフェア」でのワークショップ開催、小学生を対象とした食農体験を通じたボランティアなどがあります。これらの活動は、社会で生きていることを実感し、家庭科の専門性を深めるとともに、異年齢間のコミュニケーション力を高め、勤労観・職業観を育成するなど、キャリア教育を実践する場となっています。

県立御殿場高等学校は、このような活動を通して、地域社会を支える有為な人材の育成を目指しています。【高校教育課】

「こてんばを育むプログラム」の推進
「読む力」は、国語だけでなく、全ての学習の基礎になります。入学前の4歳から6歳は「読みにつながる力を育てる時期」と捉えています。保育所(園)や幼稚園では遊びを通して豊かなことば環境をつくること(こてんばを育む取組)を提案しています。

子どもたちの周りにいる大人が「子育てについて正しい理解をすることは非常に大切です。子ども支援研修会」や「子ども理解講座」を開催し、教職員や保護者等の力量アップを図っています。

子ども支援室は、平成23年度に「子ども心の健やかな成長に資する環境整備」の一環として、子ども支援チームを立ち上げました。平成25年度には、すこやか子ども課子ども支援室となり、子ども及び保護者や教職員などが安心して相談し、支援を受ける窓口として機能しています。

そして、小学校の低学年では「読む力を伸ばす時期」として、ことば遊び(拗音かるた遊び、早口ことば、しりとり、ことば集めなど)を勧められています。中学年での学業不振に陥らないために、「読む」ことに着目していただきます。

子ども支援室の取組をLD学会で発表

子ども支援室の取組をLD学会で発表

地域社会を支える人材の育成を目指す家庭科教育

努力しています。感じて考えてつくる情報デザイン科には、ヒューマンサービス(保育・食物栄養・被服等)とデザイン(ファッション・色彩・CG等)の2つの類型(コース)があります。『感じて考えてつくる』をテーマに、自立した人社会を作る人、スペシャリストとして活躍する人の育成を目標としています。この目標を達成するために、デザイン・コンクールの等への参加、地域・企業と連携したオリジナル商品の開発・販売、文化祭等でのファッション



自作のコスチュームを文化祭で発表

キャリア教育の視点に立った地域社会との連携
地域や産業界、企業等と連携した活動は、これ以外にも、例えば、「こてんばアートクラフトフェア」でのワークショップ開催、小学生を対象とした食農体験を通じたボランティアなどがあります。これらの活動は、社会で生きていることを実感し、家庭科の専門性を深めるとともに、異年齢間のコミュニケーション力を高め、勤労観・職業観を育成するなど、キャリア教育を実践する場となっています。

子ども支援室の取組をLD学会で発表

子ども支援室の取組をLD学会で発表

子ども支援室の取組をLD学会で発表

子ども支援室の取組をLD学会で発表

自己選択・自己決定 自己実現

静岡県立静岡岡部特別支援学校 教諭 丸尾 真由美



学習発表会大成功 筆者 2列左から2人目

施設から通っているというところで、生徒同士にはお互いに遠慮があり、学級活動では、話合いのテーマによっては生徒から意見がなかなか出なかったり、発言力のある3年生の一声で、全てが決定してしまったりすることが多く見られました。また教員が話合いの手助けに入ることが多く、生徒の主体的な話合いとは言いえない状況でした。

そこで、話合いのスタイルを変えようと考え、毎回司会を順番に行うようにして、教員は見守るようにしました。

初めは、司会が回ってくるたびに戸惑っていたが、二回、三回と回を重ねるうちに、どのようにすればスムーズに進むのか、そのためにはどんな準備が必要か、といったことを生徒たちは考え始めました。

それでも話合いが行き詰まったときは、教員に相談することもありますが、放課後に残って話合ったり、施設に持ち帰って考えてきたりと、生徒たちの力で問題を解決しようという姿勢が見られるようになりました。

本校は、静岡医療福祉センターに併設し、そこに入所している児童生徒が在籍する、肢体不自由の特別支援学校です。

中学部の生徒数は16人、そのうち私が担任する4組の生徒は、2・3年生合わせて4人という少数です。

ほとんどどの児童生徒が、

生徒主体で作り上げる喜び

本校では、秋に学習発表会があります。例年、学部全体で劇などの発表を行っていましたが、今年度はクラスごとの発表を行うことになり、学級で学習発表会の内容を決めることになりました。

自己実現に向けて

学習発表会での成功を機に、4組では話合い活動がさらに活発になり、新しい発想を次々と実現してきました。生活目標を曜日ごとにしたりと、楽器演奏を参観会で発表したりと、学校生活を主体的に作っています。大人から言われたことをするのはなく、自分で考えたいことを実現しようと模索する姿がそこにはあります。

この体験が、今後一人一人の進路を切り開いていく力につながることを願い、これから出会う生徒たちにも、主体性を育てる支援をしていきたいと思えます。

しかし本番では、舞台上でパステル画を描き、一人一人が将来の夢を語る姿は、とても輝いていました。3年間で一番大変だったけど楽しかった、という生徒の作文から、自分たちで作り上げる喜びを実感できたのだ



学習発表会でパステル画制作



クラスで発表(4組バンド)

YES, WE CAN!

やっつて良かったと思える
小中連携を目指して

伊豆市立修善寺中学校 教諭 鈴木裕香子



筆者

「つながり」からのスタート

「先生、よろしくお願ひします。入学式当日、新入生の一人が、はにかみながら、まっすぐこちらを見つめ、声を掛けてくれました。」

修善寺小6年生との小中連携授業で、私が外国語活動のアシスタントティーチャーとして出会った生徒でした。

このつながりを大切にしたい。中学校に迎え入れてあげたいと思った瞬間でした。

修善寺小では、次の4つのルールを大切にすることで、恥ずかしがり屋の子どもでも安心して英語を話し、仲間と楽しもうに活動していました。

①日本語は使わない
②間違えたら「Sorry」、必要ならジェスチャーやうなずきも一緒に付ける
③「Hello」「Good bye」など挨拶を入れる

④お礼「Thank you」を言う
小学校で親しんできたルールを継続し、段階を追って発展させていけば、中学校に入学しても安心して学習に取り組めるのではないかと、さらに進化させていきたいと考えました。

「恥ずかしがり屋の子が多いです」と、修善寺小6年担任の大城晴美先生が、小中連携授業を始める前の私に教えてくれました。

でも、実際に修善寺小6年生との授業を行い、回を重ねるにつれ、表情やまなざし、雰囲気など



大城先生(修善寺小)と「外国語活動」を実践

芸術祭 2015

今年も開催します!
「ふじのくに芸術祭2015」
作品・参加者募集!!
「ふじのくに芸術祭」は、今回で55回目!! ふるって御応募、御参加下さい!

「つながり」からのスタート
「先生、よろしくお願ひします。入学式当日、新入生の一人が、はにかみながら、まっすぐこちらを見つめ、声を掛けてくれました。」
修善寺小6年生との小中連携授業で、私が外国語活動のアシスタントティーチャーとして出会った生徒でした。
このつながりを大切にしたい。中学校に迎え入れてあげたいと思った瞬間でした。
修善寺小では、次の4つのルールを大切にすることで、恥ずかしがり屋の子どもでも安心して英語を話し、仲間と楽しもうに活動していました。
①日本語は使わない
②間違えたら「Sorry」、必要ならジェスチャーやうなずきも一緒に付ける
③「Hello」「Good bye」など挨拶を入れる
④お礼「Thank you」を言う
小学校で親しんできたルールを継続し、段階を追って発展させていけば、中学校に入学しても安心して学習に取り組めるのではないかと、さらに進化させていきたいと考えました。
「恥ずかしがり屋の子が多いです」と、修善寺小6年担任の大城晴美先生が、小中連携授業を始める前の私に教えてくれました。
でも、実際に修善寺小6年生との授業を行い、回を重ねるにつれ、表情やまなざし、雰囲気など

入学式を待つ新入生

- 美術部門
・美術展(平面・立体) 申込8/28(金)まで
・写真展 申込8/19(水)まで
・書道展 申込8/19(水)まで
 - 文学部門
・文芸コンクール 申込9/4(金)まで
・高校生短歌・俳句コンクール 申込9/15(火)まで
 - 音楽・舞台芸術部門
・合唱コンクール 申込10/17(土)まで
・演劇コンクール 申込は公演の60日前まで
- 詳細は、市町の図書館や公民館等に置いてある募集要項を御覧下さい。
■問い合わせ 県文化政策課 054(22)2254

「山の村だより」

大自然を体感しよう!!

この時期、県立富士山麓山の村は、新緑の季節を迎え、リスやヤマガラなどの野鳥が餌を求めやってくる。また、山の村構内にシカの親子が突然現れることもしばしばです。

この4・5月には、中山の村では、研修の充



宿泊訓練にて(新作り)



親子で活動(新作り)



昼食(バーベキュー)

実により児童生徒の「生きる力」が育つよう努めています。

山の村主催事業

今年度は、県民向けの主催事業を下表のとおり実施しました。どの事業も参加料五百円・千円程度で昼食付きです。気候が良い春と秋に計画しており、仲間や親子で一日楽しめる内容となっています。

今年度は、県民向けの主催事業を下表のとおり実施しました。どの事業も参加料五百円・千円程度で昼食付きです。気候が良い春と秋に計画しており、仲間や親子で一日楽しめる内容となっています。

中でも「山の村たいけん」は、昨年100名以上の申込・参加があった恒例のイベントです。今年度は新企画を盛り込み、10月18日(日)に実施する予定です。

皆さんも大自然の中ならではの体験をしてみませんか。御参加を心よりお待ちしております。

問・申 県立富士山麓山の村まで
 0545(36) 2226
 0545(36) 2229
 【高校教育課】

笑顔いっぱい 親子あそび！ 運動好きの子どもの 育てよう

近年、子どもの体力は、長期的に低下傾向にあり、体格は親の世代を上回るにもかかわらず、体力・運動能力は下回っている状況です。

この状況を改善するためには、スポーツや運動をすることが重要な要素です。運動神経の80%が「ふじのくにファミリー・

6歳までにはできが、人の脳や神経は、乳幼児期に著しく発達します。「鉄は熱いうちに打て」ということわざがあるように、県では、乳幼児期において身体を使った運動遊びを十分に体験できるように、親子のスキンシップを図りながら、楽しく継続して実践できる内容となっています。さらに、幼稚園・保育

6歳までにはできが、人の脳や神経は、乳幼児期に著しく発達します。「鉄は熱いうちに打て」ということわざがあるように、県では、乳幼児期において身体を使った運動遊びを十分に体験できるように、親子のスキンシップを図りながら、楽しく継続して実践できる内容となっています。さらに、幼稚園・保育

6歳までにはできが、人の脳や神経は、乳幼児期に著しく発達します。「鉄は熱いうちに打て」ということわざがあるように、県では、乳幼児期において身体を使った運動遊びを十分に体験できるように、親子のスキンシップを図りながら、楽しく継続して実践できる内容となっています。さらに、幼稚園・保育

春の主催事業(空気があれば参加可能です)

6/9(火)~6/25(木) 初夏の「静岡の美」展覧会【申込不要】
6/10(水) 223(ふじさん)を知らう講座② 富士山の環境保護
6/17(水) 223を知らう講座③ 蕎麦打ち体験
6/21(日) 林業体験ウォーキング& 緑陰コンサート
6/24(水) 223を知らう講座④ 富士山の環境保護

秋の主催事業(これから募集します)

9/5(土) 災害実践力養成講座
9/19(土)~20(日) 「山の村宿泊たいけん」
10/9(金)~28(水) 秋の「静岡の美」展覧会
10/18(日) 「山の村たいけん」
10/31(土) 富士山クリーン作戦in 山の村
11/11(水) 223を知らう講座⑤ 和食体験
11/20(金) 223を知らう講座⑥ 星空観察

新聞紙アタック

新聞紙を片手でたたいてみよう

慣れたら、新聞紙の裏紙を畳み、ジャンプしてアタック!!

家庭でできる親子遊び



親子でファミリー・チャレンジ・プログラムに挑戦

分かりやすく、楽しく、歴史の魅力が満載! ふじのくに考古学セミナー(前期)参加者募集

平成27年度「ふじのくに考古学セミナー」では、これまでの調査・研究成果を題材とした考古学講座と史跡見学会を行います。今回、前期分2回の募集を行います。

■日程/会場
 前期:「発掘調査担当が語る 歴史を変えた静岡の遺跡」
 第1回 6月18日(木)14:00~15:30/県埋蔵文化財センター「古代東海道を掘る~静岡市曲金北遺跡~」講師:及川 司
 第2回 7月16日(木)14:00~15:30/県埋蔵文化財センター「銅鐸の谷を掘る~磐田市西の谷遺跡~」講師:田村隆太郎
 後期:「静岡の城を知る・学ぶ・歩く」
 第3回 9月中旬
 第4回 10月下旬
 第5回 11月下旬(現地見学)

■参加費 無料
 ■定員 50人(先着順)
 ■申込み 前期: Eメール・電話・FAXにて(住所・氏名・連絡先・希望講座を記入してください)。定員到達時点で募集を締め切ります。
 後期: 7月以降に募集を開始します(後日告知)。

問 〒422-8002 静岡市駿河区谷田23-20 県埋蔵文化財センター
 054(262)4261 054(262)4266 Eメール maibun_tyosa@pref.shizuoka.lg.jp

スクールソーシャルワーカー活用事業

今年3月に川崎市で起きた中学1年生男子生徒殺害事件や、内閣府より定められた「子供の貧困対策に関する大綱」の施行により、「スクールソーシャルワーカー」の存在が脚光を浴びています。

今年度、静岡県では4市3町(伊豆の国市、長泉町、清水町、小山町、御前崎市、菊川市、磐田市)と各教育事務所にスクールソーシャルワーカーを配置し、福祉の視点から児童生徒の問題解決に向けた支援を行います。

「スクールカウンセラー」と何が違うの? という質問が多く聞かれます。スクールソーシャルワーカーは、児童生徒を取り巻く環境の問題が複雑に絡み合い、学校だけでは解決困難なケースについて、学校・家庭・地域をつなぎ、改善・解決を図る福祉の専門家です。児童生徒の問題解決に向けた支援を行います。

各教育事務所に配置したスクールソーシャルワーカーは、学校の要請に応じて派遣することができ、派遣方法は、学校を通して各市町教育委員会、または各教育事務所地域支援課に問い合わせてください。

【義務教育課】

